

カトマンズ本願寺参拝と日本語学校生と交流

8月27日（水）の2日目にはカトマンズ本願寺で参拝と日本語学校生との交流をしました。

カトマンズ本願寺では、僧侶と一緒にお経を読んで朝のお勤めをしたり、僧侶のお話を聞いたりしました。ネパールでのお勤めのやり方を学ぶことができ、日本との相違点や類似点を知ることができました

学生との交流ではお茶を飲みながら日本語でお話をして親睦を深めたり、一緒にゲームをして遊んだりしました。日本語を学んでいる理由やネパールの文化についてなど日本にいるだけでは知ることができなかったことを学ぶことができました。その後交流会で仲良くなった学生とお互いに連絡を取り合って一緒に食事や買い物をしたり、サッカーをしに行ったりするなどして交友関係を広げることもできました。



カトマンズ本願寺で参拝



日本語学校生と交流

Nyingma Palyul Buddhist School 竹内那穂子 西城陽高校出身

ネパール海外フィールドワーク3日目、4日目にはNyingma Palyul Buddhist Schoolを訪れました。Nyingma Palyul Buddhist Schoolは6~17歳の小、中、高校生が一緒に暮らしながら仏教を学ぶと同時に、英語や数学、理科などの基礎知識も勉強しています。学校は自然豊かな山の上にあり、小さいですがそれぞれの科目の教室が並び、運動も勉強もみんなで行える環境が整っていました。

Nyingma Palyul Buddhist School初日は、生徒と先生方が笑顔で迎え入れてくださり、みんなで平和のためのお祈り(マントラ)をした後、ご飯を頂きました。その後はグループに分かれて子供たちとお絵描きをしたり、折り紙を教えてたり日本の遊びなども交えて、交流を深めました。2日目も学校でご飯をいただいた後、みんなでバレーボールやシャボン玉などを遊び、楽しい時間を過ごしました。



子供たちとのグループ交流

子供たちとの交流は折り紙やお絵描き、シャボン玉なども大盛り上がりで、子供たちが何事にも興味津々に取り組んでくれたことが印象的でした。歌を歌ったときもみんな一緒に楽しそうに歌ってくれ、学校の子供たちが明るく元気でエネルギーに満ち溢れていることを感じました。遊ぶにつれいろいろな表情をみせてくれる一方で、6歳ぐらいの子供でも親元を離れて暮らしており、楽しい経験も沢山ある反面、親と一緒に過ごせないことでの寂しさも抱えているのではないかと感じました。もし何か手助けしたいと考えたときには、寄付だけでなく、現地に足を運んで直接教えたり、話したり交流することが大切だと思いました。また、校長先生が仏教についての多くのお話をしてくださいり、学びになる部分も多かったですが、自分の仏教に対する理解がもっと深ければともどかしさを感じました。

Nyingma Palyul Buddhist School での交流は子供たちの生活やネパールの宗教、文化について学ぶことができ、とても貴重な経験になりました。



学校のご飯(一日目)